

## 開校記念式典式辞

若葉が目に鮮やかに映り、爽やかな風薫る本日ここに、柄沢高男<sup>からさわたかお</sup>同窓会長様及び鈴木千恵美PTA会長様、並びに大須賀絹子教育振興会長様のご臨席を賜り、群馬県立榛名高等学校開校記念式を挙行できますことを心より御礼申し上げます。

本校は、今年で八十三周年を迎えました。ここで、本校の歩みを少しお話しします。昭和十五年四月、本地域に女子教育をとの地域の方々の強い願いのもと、室田町立群馬県室田高等実践女学校として産声をあげました。本校の誕生は、たいへんな難産であったと伺っております。昭和十年に烏川水害が発生し、町内でも多数の死者や家屋の被害が出ました。当時、室田町は地域復興のため、多くの時間と資金をつぎ込まざるを得ず、本校開校の計画は遅れました。建設遅延の末の本校創立は、地域の方々の大きな期待に満ちたものであります。

しかし、喜びもつかの間 開校の翌年には、大東亜戦争のちの太平洋戦争に突入、日々の授業は戦時色が濃くなり、体操の授業は軍事教練となりました、また、勤労奉仕として、木炭の背負いだし、麻の皮はぎ、草刈りや稲刈りなど、地域の貴重な労働力として生徒の力が要請されるそんな時代でもありました。

そのような中、昭和十八年三月には第一回卒業式が挙行され、七十二名の卒業生を送り出しました。同時に、同窓会が発足し、その第一歩を歩み始めました。

戦争が激しくなる昭和十九年には、学徒動員の命により、校舎で学ぶことはできず、中島飛行機桐生工場で、戦闘機の製造に携わったことが榛名高校記年誌に記されております。また、先生方の中にも、戦地へ出向かれた方々が大勢いらっしゃったと記録されています。

そのようなご苦勞を重ねながら、終戦間もなく、昭和二十一年には五年制の室田町立室田高等女学校と改称し、昭和二十二年には県立に移管、男女共学化され、群馬県立室田高等学校となり、昭和三十年には、町村合併に伴って校名変更により、現在の群馬県立榛名高等学校となりました。

開校七十周年にあたる平成二十二年には、「ぐんまチャレンジ・ハイスクール」の指定を受け、現在につながる特色ある教育課程を導入しました。

「活気あふれる小さな学校 あっとほ一む榛高」のスローガンのもと、本校では、生徒がもつ潜在的な力を引き出し、社会で通用する人材として成長できるよう、生活力や人間力の育成に取り組んでおります。

これまでの卒業生一万二千二百四十四名の政治・経済・芸術・スポーツなど各方面でご活躍されるお姿は、在校生と教職員の誇りであるとともに、大きな励みであり、また、お手本でもあります。特にプロ野球オリックス・バッファローズの安達了一選手は、私も教えた卒業生の一人ですが、難病を抱えながらも前向きに野球に取り組む姿に、大変勇気づけられております。

生徒の皆さん、これまで歩いて来られた諸先輩方のご苦心に思いをはせ、本校での三年間が実り多き時間となるよう、しっかりと学び、力をつけてください。高校生という、最も可能性に満ちたこの時期を将来の自分の糧となるような意義ある学びができる、そんな時間にしてください。

結びに、今日までの諸先輩方のご尽力に感謝申し上げますとともに、郷土を愛し、郷土を背負ってたつ人材に育て上げる本校の役割を十分に果たせるよう、職員一丸となって、努力してまいりたいと存じます。

本日、ご臨席の皆様には、今後とも本校へのご支援とご鞭撻をお願い申し上げますとともに、皆様のご多幸を祈念申し上げ、式辞といたします。

令和五年五月二日

群馬県立榛名高等学校

校長 天田 徹也